

6年1組

つなぐれ 広がれ 木の輪
～未来に学びをつなぎたい～



ESD 成果発表会に参加しました!



みなさんはESDという言葉を知っていますか?これはEducation for Sustainable Developmentの略で「持続可能な開発のための教育」と訳されます。本校はユネスコスクールの認定を受けていて、毎年核活動がこのテーマに合致する学級が「信州ESDコンソーシアム成果発表・交流会」に参加して、同じようにESDを行っている学校同士での会に参加しています。今年度は6年1組が発表しました。

活動に際して、まずはESDで重要となるSDGsについて知ることから始めました。子どもたちは、よく耳にする言葉ではあるもののその実態はあまり知らないようでした。SDGsは「Sustainable Development Goals」の略称で、「持続可能な開発目標」という意味です。「持続可能」とは、将来の世代のために地球環境や資源を守り、今の状態を維持できることを指しています。これらを達成すべく17の目標がありますが、クラスで取り組んできた活動は、「目標13:気候変動に具体的な対策を」「目標15:陸の豊さも守ろう」につながっていることが分かりました。つまり、今まで追究してきたことは今世界で目指しているSDGsにつながるものであったと改めて再確認できました。

成果発表会の持ち時間は10分。この会に向けて、5年生からの活動で、発表できそうなものを挙げ、担当を決め、1枚のスライドを2～4人ほどで分担して作成していききました。1枚のスライドで使える時間は30～40秒ほど。限られた時間の中で、何を伝えるのかが大事と考えて作成していききました。

発表では、今まで出会った人々、行ってきた活動、そして今後の活動について紹介していききました。他の学校の発表にも、放置竹林問題を取り上げていたり、スタンプラリーの商品を地域の木を使ったものしていたりするなど、自分たちの活動と重なるものがあり、つながりを感じました。

発表会はオンラインで行いましたが、互いに質問する時間もありました。中でも、「国産材ではなく輸入材が多いとありましたがその理由は何ですか」という質問が来た際には、スライドを担当したAさんが、「国産材は値段が高いからです」としっかり答えていました。質問されたことで、自分たちの学びについて改めて言語化でき、学んできたことがより確かなものになっているようでした。

今後は、活動のまとめとして、子どもたちの「森林の魅力や現状をもっと伝えたい」という想いを達成すべく、キノハナkinanoの皆さんの協力を経て、「キノハナフラワーボックス」づくりを行っていきます。資金はびんずる市の売上金です。公共施設に設置できるものをいくつかつくり、様々な人に木への興味を持ってもらえるようなものにしていききたいと思います。

また、この2年間も学びを形にして残せるように、「キノハナコサージュ」づくりに取り組みます。卒業式に自分たちで作ったコサージュを身につけ、学校を卒業できたらと考えています。

「活動のすごさや大切さが わかるようになりました」



3月3日に、キノハナkinanoのみなさんと最後の交流をした1組の子ども達。2年間の活動の集大成として、とてもいい時間を過ごすことができました。

初めに作成したのが、「キノハナコサージュ」。6年1組の子どもたちが手作りできるように考えてくださったスペシャルバージョンでした。北相木産のカナクズでキノハナを作り、そこに花びら用のカナクズをボンドで貼りつけていきます。同じ工程で作業しているのに、手にしたカナクズの太さや長さや色、花びらの貼り付け方によって、その出来栄は個性豊かになりました。2組の人にもつけてもらいたいと考え、作ったのは2人分。思いを込めて渡してきました。卒業式では、教室でこのコサージュを胸につけて式に参加することができました。

次に製作したのが、「キノハナフラワーボックス」です。子どもたちに「多くの人に目にしてもらって、木の魅力や現状を伝えたい」という願いがあることをキノハナkinanoのみなさんに伝え考案していただきました。今回は35cmの正方形の北相木産の木で作ったボックスに、キノハナを植えていくという作業でした。まずは4つのグループに分かれ、白、赤、青、黄の中からテーマカラーを決めました。そして、そのカラーに合わせ、大きめのバラやカーネーションと言ったキノハナのポジションを決め、その間に、子どもたちがこの日までに作成した100本近くのキノハナを差し込んでいくという作業でした。

子どもたちは、「大きい花を真ん中に集めて、周りを小さい花で囲っていかない?」「大きい花を対照的に配置した方がバランスがいいよ」など互いに意見を出し合いながら製作に取り組んでいきました。

完成したフラワーボックスは、想像していた以上に華やかで素敵なものになりました。設置場所も話し合いで様々な場所が候補に浮かび、4か所から許可をいただけて、寄贈できることになりました。

この活動した日のBさんの日記には、次のように綴られていました。

キノハナkinanoさんとの交流を通して学んだこと

(前略) 作りながら今までの交流を振り返ると、最初にキノハナを作った4年生の時は、「きれいに作れてすごいな～」「難しいな～」としか思わなかったものも木の学習を始めてからは、木の種類や香りも気になるようになりました。そして何より、キノハナkinanoさんがしている活動のすごさや大切さがわかるようになりました。それに、今の日本や世界での森林問題についてしっかりと考えて行動することができたのもキノハナkinanoたちのおかげだと思います。これからも沢山のの人に木や森林について教えられるようにしたいです。

活動を続けてきたからこそ、木を通して見える世界が変わってきたBさん。魅力に惹かれた4年生、追究した5年生、そして学んだことを発信していった6年生。学びがつながり、今のBさんの想いが生まれてきたことを感じます。

1年生木へについて教えてきました!



卒業式1週間前、1年生との交流も行いました。昨年度作成した附属長野小の8種類の木が掲載されているパンフレットが残っていたため、1年生にプレゼントしようということになり計画したものです。1年生の先生方から「ぜひ、渡すだけでなく、木のことにについても教えてほしい」という要望があったため、1年生と2人1組のペアになって実際に外に出て、パンフレットに載っている木を探したり、その木について説明したりする活動を行いました。

1年生に「どこの木から見たい?」と聞き、目線の高さまでかがんで説明する姿は、まさに6年生。残念ながら、現在葉がついている木はわずかだったのですが、「春になったら、こういう形の葉が出てくるから、ぜひ見てね」「秋になるとイロハモミジは、色が変わってくるから楽しみにしててね」など、1年生の子たちが2年生になった時に観察できるよう、考えて木の紹介をしていました。

卒業式直前ですが、最後まで自分たちのやってきたことを発信しようと、役割を果たす姿があります。木について学んだことはたくさんあるのですが、こうした、「学び方」の経験が中学につながっていくのだと思います。ぜひ、この学校で学んだことを活かし、中学でも色々なことを追究してもらいたいです。

